

平成26年度第1回 芦屋市立美術博物館協議会 会議録

日 時	平成26年12月16日(火) 13:00~14:30
場 所	美術博物館 講義室
出席者	<p>会長 蓑 豊 副会長 齊木 崇人 委員 池浦 隆一 委員 岸野 裕人 委員 仲庭 太栄子 委員 別所 健 委員 若林 敬子 欠席委員 野村 知巨</p> <p>(芦屋市立美術博物館指定管理者) 副館長 石井 茂(株式会社小学館集英社プロダクション) 学芸員 藤井 康憲(株式会社小学館集英社プロダクション) 株式会社小学館集英社プロダクション 菊田 典子 グローバルコミュニティ株式会社 青木 大介</p> <p>(事務局) 教育長 福岡 憲助 社会教育部長 中村 尚代 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋</p>
事務局	生涯学習課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 委嘱状及び任命状交付
- (4) 委員紹介
- (5) 会長及び副会長の選出
- (6) 議題・報告
 - ①芦屋市立美術博物館の運営基本方針について
 - ②平成26年度の事業内容と利用状況について

③平成 27 年度の事業計画について

④その他

2 提出資料

資料 1 芦屋市立美術博物館運営基本方針

資料 2 芦屋市立美術博物館協議会資料（指定管理者提出分）

3 会議の成立

委員定数 8 人中、7 人の委員が出席しており、芦屋市立美術博物館条例施行規則第 11 条第 2 項により会議は成立した。

4 委嘱状及び任命状の交付

博物館法第 21 条及び芦屋市立美術博物館条例第 13 条第 2 項の規定に基づき、委嘱状及び任命状を交付。

5 会長・副会長の選出

芦屋市立美術博物館条例施行規則第 10 条に基づく互選により、菫委員を会長に、齊木委員を副会長に選出。

6 審議経過

（菫会長）

それでは議題（1）の「芦屋市立美術博物館の運営基本方針」について、事務局から説明をお願いします。

（事務局：長岡）

芦屋市立美術博物館の運営基本方針は、平成 21 年 10 月にそれまでのものを見直して作られたものです。この運営基本方針は指定管理者の募集時にも提示しており、これに基づいて運営するということになっています。平成 21 年度に見直したポイントとしては、それまでのものは具体美術への偏りが著しく見られていたというところが、市の運営の中で割と指摘を受けていた部分があり、その点を見直したのですけれども、ただしそれは具体美術や現代美術をないがしろにするということではなく、大切にしていくということはそれまでと同じことですが、その捉え方、切り口を工夫してということで、それを研究や調査・展示活動に活かしていくという部分で、あまり偏った捉え方ということではなく行うようにするというところが変更されているということです。

また、市民に親しまれ開かれた館を目指すということを全面に打ち出している点です。そして 5 つの美術博物館の使命、目的を示しています。美術部門と歴史部門、美術館と博物館という言い方もできますけれども、それぞれの方針、基本目的、事業活動ということを書いています。次に事業内容を検証するためのしくみの構築等を明記したということで、今後の取り組むべき課題等を書いています。その内容を見ると現在も解決できていない課題も含まれていますが、それらは引き続き取り組んでいくべきものとして捉えたいと思っておりますが、そのような形でこの芦屋市立美術博物館の運営基本方針があります。

たくさん文字が書いてあり、お時間もないのでなかなかご覧いただけないとは思いますが、またお時間のある時に見ていただいてご意見等をいただけたらと思います。説明としましては以上です。

(養会長)

ありがとうございました。ただ今の説明で何かご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

(若林委員)

私もこれはかねてより読ませていただいています。時間が限られていますから、このような資料は今日の会議に先立ちまして各委員に事前に送付して十分読み込んでおいていただかないと時間が無駄になると思います。今後、その点についてよろしくお願いします。今ここに来て初めてこれをということになると、時間が無駄だと思います。

(養会長)

今後よろしくお願いします。次の会議でぜひ読んだご意見をお願いします。他に何かございませんか。

(若林委員)

基本方針の中にはこの館をどんどん市民の方に開かれた場所にしようっていう大きなコンセプトがありますが、以前、私どもは美術博物館で結婚式を開催してみてもどうかという提案をさせていただいて、実際に結婚式をここで開きました。参加された方には好評でした。館内の見学もしていただけるし、この場所を知っていただけるということで、とっても良い試みだと自賛していましたが、見直しがなされて「それはまずいんじゃないか」というようなことになりまして、それ以来行われていません。それについて市がどのような理由で駄目なのかというところを伺ってみたいと思っています。

(事務局：長岡)

当初の事業計画には上がっていないものですが、試行ということで、1回だけ開催されました。美術博物館が指定管理者による管理運営になって1年目の年でした。色んなふうに美術博物館を身近に捉えていただき、結婚式を挙げていただいた方もすごく愛着が出るし、話題性もある等、アイデアとしては、色々良いところもあったとは思いますが、必ずしも結婚式を美術博物館で行うということが駄目ということではないのですが、公の施設ですので、通常以上に事前に整備・調整して決めておかなければならないことが多くあると考えますが、当時は不十分な点がかなりありました。その後、継続していくには、もっと時間をかけて計画的に、いろんなことを詰めれば駄目ということではなかったかもしれないんですけど、そこまではされませんでした。経緯としてはそんな感じだったと思います。

(仲庭委員)

結婚式は美術博物館の休館日とかじゃなくてなさったってことでしょうか。月曜日が休館日ですよ。

(事務局：長岡)

月曜日ではなかったですよ。

(若林委員)

違ったと思います。

(仲庭委員)

ご結婚式というと、普通は土曜、日曜や祝祭日が多いと思います。私はこのお話をまったく知りませんでした。

(藁会長)

結婚式をしている公立美術館はあります。

(仲庭委員)

誰もが素直に理解できれば良いですけども、「ちょっと待てよ」っていうことになった場合に、「なぜここは結婚式場、ホテルでも何でもないのに」っていうちょっと違和感というか、多分、その準備段階がきちっとできていたのかなって思って今のお話だとそうでもなさそうですし。

(藁会長)

でも普通は来館者は喜んで祝福してくれるし、私は別にいいと思います。やっぱり少しでも賑やかになる場所、公共、市民のためならばいいんじゃないかなと思います。やり方がありますが。

(事務局：長岡)

条件定義が色々いるかと思います。

(若林委員)

ということは前向きに検討はされているのですか。

(事務局：長岡)

今、特にそのことが出てきている訳ではないので、その時はもう駄目になったので、それ以降は特に新たに考えるっていうことはしてないんですけども、特に結婚式をやるからいけないっていうことではないとは思っているので、条件整理をすれば可能じゃないかとは思っています。

(藁会長)

この件については、指定管理者と一緒に色々お話して前向きにみなさんと考えていけばいいんじゃないかと思います。

続きまして議題(2)「平成26年度の事業内容と利用状況」について説明をお願いします。

(石井副館長)

今年度は、まず3月30日から6月15日まで「世界を魅了したやまとなでしこ」という展覧会名で、浮世絵展を開催しました。そして7月5日から9月7日までは「具体、海を渡る」展を開催しました。直近では「art trip vol.1 窓の外、恋の旅」展を開催しました。それが11月30日に終了し、12月13日から「土器どき芦屋の物語」を現在、開催しており、この展覧会が2月8日までの予定です。最後は毎年しています「造形教育展」で2月21日から3月1日まで、今年度終了の予定になっています。

動員数は、「浮世絵」展は7,767名で、「具体、海を渡る」は4,481名、3番目の「窓の外、恋の旅。」は5,895名、そして現在「土器どき芦屋の物語」展が始まりまして現在239名の方が入館されています。現在4月からの累計で18,382名という数字になっています。目標としましては3万人、おかげさまで前回の3年間の指定管理の中で3年目に3万人を超えています。今年度もぜひ3万人を目指してやっていこうと思います。

毎月の入館者数の内訳について、有料観覧者数合計は個人、団体と分かれています。個人の方が一般の方、高齢者の方、障害者の方、高校生、大学生に分かれています。それと団体料金があり、そこまでが有料観覧者数です。無料観覧者は招待者の方、団体引率者の方、小・中学生、中学生以下は無料になっていますので小学生、中学生それから小学生未満の人数です。その他という数字については、講義室及び体験学習室の利用者人数、庭の利用者の人数、アートバザールの人数等となっています。これらを小計で見ると、まず一般の個人で来られた方の合計が5,937名、団体の方が255名で、日曜日までの有料観覧者数は6,192名になります。その他招待者、団体引率者の方、小・中学生、小学生未満の方の合計が3,425名ということで無料観覧者数は3,425名、その他8,613名ということで合計が18,245名となります。この数字には、直近の土曜日・日曜日の人数が入っていませんので、先の数字と異なりますが18,245名ということになります。

アートバザールを年に2回春と秋にしていますが、今年は秋の2日目が雨のため中止しましたが、4月26日には1,170名、4月27日は1,058名、10月4日には1,123名と多くの人数が含まれています。招待者数の中には、いわゆる招待券を持ってきた方以外の数字として、「老人福祉月間」で無料になった方々の24名、それから「関西文化の日」という大きなイベントがありますけれども今年2日間で614名の方に来ていただけまして、昨年が520～530名だったと思いますけれども、614名の方が当館に足を運ばれました。それら638名の方の人数が招待者以外の数字として入っています。そして一般と高齢者とのバランスですが、今年是一般の方が多くなりました。それ以前は高齢者の方の人数が大きな割合を占めていたのですが、今年若い方に多く来ていただきまして、一般の方が3,454名、高齢者の方が1,868名と、バランスが若い方へとシフトしているような傾向になっています。いずれにしても今18,000名で、もう少しで20,000名ということで、残り2つの、大きな展覧会で30,000名を目指してやっていきたいと思っています。

展覧会以外、展覧会に関連した事業も含めましてイベントや講演会、ワークショップ等をまとめると、まず4月の初めから始まりました「世界を魅了したやまとなでしこ」展の中ではギャラリートーク、それからアートバザールが4月に行われました。講演会としては当館の学芸員が片岡家所蔵の浮世絵についての講演会をしています。ワークショップでは「伝統文化の能楽体験教室」というのを2回目ですけれども、地域の能楽の方に来ていただきました。講演会でも「上方浮世絵の歴史と特徴」という講演会、それから「やってみよう！紙版画」では、ご家族連れで紙版画を作りました。それから「びはくルーム」というのは今年度から始まった教育普及事業ですが、この時に松谷武判先生と堀尾貞治先生にお越しいただいて家族で楽しめる講演会を開催し、68名が来ら

れました。

「美博寄席」というのは芦屋市教育委員会の主催でもありまして、毎年伊勢町をはじめ、周辺の自治会の方々と一緒に行っているイベントです。落語を年に1回行ってまして、150人くらい、会場が満杯になり、地域の方々に楽しんで来ていただけたと思います。コンサートには127名の方に来ていただきました。「古文書講座」も継続的に行っていきます。それからミュージアムコンサート、講座、「びはくルーム」を行っています。

「窓の外、恋の旅。」では、オープニングイベントで庭を使いながら映像と音楽によるライブを夕方までしました。100名近くの方に来ていただきました。今回は谷川俊太郎さんにお越しいただき、ご自身の詩を朗読されましたが、応募多数ということで、往復はがきで抽選し、人数も増やして115名の方に来ていただきました。ちょうどその日は庭ではアートバザールをしていて、かなり賑やかな日になりました。それから現代美術の作家さんたちのイベント、ワークショップ、トークを行っていただきました。それからギャラリートーク、それからアートバザールですけれども10月4日には1,000名ほどご参加いただきました。だんじりと連携しながら庭の方でだんじりの会をしました。それからびはくルーム、そしてコンサートをしました。

びはくルームという新しい教育プログラムについて企画から運営していますが、特に学芸員を中心にした教育普及事業を充実させるということで、年間で色々な工夫をしながら新たな教育普及活動を展開しております。4月6日から各月、4・6・8・10・12月、それから2・3月とこれから行う予定です。少しずつ地域の方々、主に家族連れを対象に進めながら行っていきたいと考えています。私の方からは以上です。

(藁会長)

ありがとうございました。一つだけ知りたいのは天気の状態も入れてほしいです。これによって相当違うと思うので。雨でもうんと来るっていうことはいいプログラムだと思います。ぜひ次回からお願いします。今の説明で何かご意見がございますか。今年度展示した浮世絵は、前回のものと違いましたか。

(藤井学芸員)

今回の「世界を魅了したやまとなでしこ」展では、芦屋市在住の個人の方が収集され、当館にご寄託いただいているものを展示しました。

(若林委員)

今、この事業一覧を見せていただいて本当にたくさんの方をやっていただいてすごいなって、本当に企画だけでも大変だったろうなと思いますが、実は今回の展示のチラシを今日初めて拝見したんです。こういう物の広報ですけれども、どういうふうにされているのか、各コミスク宛にこれを送られるだけでもかなりの広報力がコミスクにはあるんですね。ですから送っていただいたら全市にこれが散らばっていると思います。

(藁会長)

もったいないですね。せっかくこんなにいいプログラムなのに。

(石井副館長)

芦屋市の小・中学校には全部撒いており、ホームページでも広報しています。しかし、各種団体には送っていない面がございますので、ぜひ今後は送らせていただきたいと思います。

(養会長)

これ新聞社には出していますか。

(石井副館長)

新聞にも出しています。

(養会長)

はい、ありがとうございます。よろしいですか。もしなければ、議題(3)「平成27年の事業計画」について、説明をお願いします。

(石井副館長)

来年の展覧会の予定ができており、今後具体的になっていきますが、今の時点での説明をさせていただきます。平成27年度の展覧会予定ということで、来年度については春にはまず初めに「芦屋市展」、これは2年に1回させていただいています。今回春に開催する予定になっています。期間も今回長くして、1ヶ月ぐらい開催したいと思っていて、芦屋市展の方も今までは春の時期にやっていたんですけども、今回はゴールデンウィークに多くの方に来ていただきたいと思います。伝統のある市展で、今年度で63回目ということで非常に歴史の長い展覧会ですので頑張っていきたいと思えます。

5月23日から8月2日までは阪神沿線の文化110年ということで、これは阪神電鉄株式会社と一緒に今回組ませていただいて、この阪神間での近辺の美術館とか博物館と一緒に阪神間モダニズムを中心とした展覧会をやるということになり、ここ1年ぐらい毎月話し合いをしまして、大分具体的になってきました。来年は阪神電鉄が開通してちょうど110年ということで、阪神電鉄株式会社も広報をさせていただきそうなお話です。尼崎市の総合文化センターと私どもの美術博物館、谷崎潤一郎記念館、それから西宮の大谷記念美術館、西宮市の郷土資料館、白鹿記念酒造博物館、BBプラザ美術館と、BBプラザ美術館が幹事役で今やっています。図録の方も販売できるものを作ろうということで、並行して取り組んでいます。今回は阪神電鉄が駅で図録の販売を行ってくれるそうですし、チラシ、ポスター等も貼っていただけるようなお話で進行しています。初めて大きく阪神電鉄と動けるとということで、いい機会ですので、今後の関係も深め、また近くの美術館、博物館の方々ともお話できる機会もできています。来年度の大きな展覧会の一つになると考えています。

8月12日からは、また「浮世絵」展を行いたいと思っています。

(藤井学芸員)

浮世絵ということで、今年度は美人画を120点展示させていただきました。その中でも特に歌川国芳や葛飾北斎の作品を展示しましたが、来年度に関しては女性だけでなく、男性、歌舞伎役者であったり男女問わず江戸時代の美意識というものは一体どんなものなのだろうか、そういうところ

を中心にご紹介できるような展示にしたいと考えています。

(石井副館長)

11月末からは具体の周辺ということで、「前衛陶芸」になっています。絵画や彫刻、生け花等も色々な交流ですとか、海外の関わり等も含めて陶芸にとどまらない色々な展覧会をしたいということで、今検討中です。最後には「造形教育展」の開催を予定しています。

展覧会以外のイベントでは、1つはアートバザールですが現状を見ると、お客さんがなかなか増えていかなかったり、お店を出す人の売り上げが気になるということもあり、アートバザールはやっぱり少し変えていきたいなということで、「ART MARKET あしや つくる場」ということで形を変えていきたいと考え、今準備をしています。若い世代のお客様であったり、ファミリー層を取り込むことになったり、今までこちらの方に来ていただかなかった方に足を運んでいただく等、楽しい思い出作り、イベント等、アートバザールでできていないところがありました。キーワードとしては、「つくる、こども、家族、お庭でのんびりしてもらう、わくわくする、みんなで楽しむ、特別な思い出の時」等、そういうようなキーワードで今準備を色々としています。ビジュアルを変えたり、イベントを入れたりすることを考えており、大きく内容を変えていきたいと思っています。それから「びはくルーム」が2年目ということで、細かい内容はまだですけども今考えているところです。

古文書講座は年間6~7回開催していますが、30~40人の方に来ていただいていますので、それもまた広げていきながらしていきたいと思います。

(藁会長)

ありがとうございました。最後にその他に入りますけれども、何かご意見がございますか。

(若林委員)

今の展示ですけれども、これは特に子どもたちに見ていただいたら良い展示だと思います。今回、各小学校、中学校から来られていますか。学校からまとめて先生が連れて来られるとか。

(石井副館長)

展示がまだ始まったばかりですが、毎年この時期には来られることがあります。すでに電話をいただいているので、もう少し広げながら今まで来られなかった方々にご案内していきたいと思っています。

(若林委員)

来られた場合には、子どもたちによく分かるような学芸員からの説明、それから対話方式で質問に分かりやすく答えてあげられるような説明の仕方を考えていただきたいです。今回の展示の最初に掲げてある解説文の中の言葉づかいについて、先ほど読ませていただいたら大変難しいと思います。あえて難しい言葉を使われなくてもいいんじゃないかと思いました。

(藤井学芸員)

今回の土器展に関しましては、芦屋市教育委員会の学芸員と一緒に連携させていただき、どうい

った層を対象とするかということ、やはり阪神間における芦屋の考古学の遺物というのはこれだけ優れている、非常にいいものが出土しているということをアピールする。もう一つはやはり子どもたちにも分かりやすくしたいという二つの項目が重要と考えていますが、ひとまずはその遺物の紹介、こちらに学校団体の方々が来られた時は私の方でできるだけ簡単な分かりやすいワークシートを配布して、「この土器はこういうものです」というように分かりやすいワークシートをぜひ作成します。初日にすぐにご用意できなかったのは私の方でも不足でございましたが、やはりそのような分かりやすい視点も考えています。「昔の暮らし」展におきましても、小学校の団体に来ていただいたり、文章も簡単にさせていただいたつもりですけれども、やっぱり難しいところもあるかと思っておりますので、ぜひご意見をいただきたいと思っております。

(若林委員)

「昔の暮らし」展は写真等がたくさんあるので、特に私は山手小学校で活動を何年も続けて来ていますので、昔の校舎が大きな写真になっているのがとっても嬉しかったです。「あーこれだった、これだった」という感じでね。先ほど大変貴重なものの展示なんですけれども、今触れる美術ってということも謳われていますので、発掘されたものはどれも貴重なんですけれども、これは触っても良いんじゃないかっていうようなものもあるかもしれませんので、その辺も展示していただいて、触ってみて感触、重さっていうようなものも来てくださる方々に感じていただいても良いんじゃないかと思いました。それからルビ、解説文にルビもちょっと振っていただいても良いんじゃないかと思っております。

(藁会長)

どうもありがとうございます。私、一つ感じたのはせっかく芦屋という地が海に近いというすごく今回展覧会で色んな面で感じるところもあったので、そういう普通の遺跡で出てこないデザインがたくさんある。そういうことをもつとつと、この地形、なぜこのデザインが生まれたのか、子どもたちには分かりませんので、やっぱりそういう説明も必要じゃないかなと思っております。それと、外国からの、唐の時代の1点だけ、私自身が中国陶器の専門なので、唐三彩の破片も出ている訳だから、ああいうものをもう少しこの地、芦屋に中国から8世紀のものが渡ってきているということもやっぱり子どもたちに、ただ置いているだけではよく分からないので、説明してください。それと普通の博物館に行きますと、みんな模造品が多いんですよ。今回のものは全部本物ですから、子どもたちにこれが何百年、何千年前の実物だということをもうちょっと説明してあげると、興奮もするし、感動もするので、普通の美術館では展示していないようなものがたくさんあったんでね、しかもすごい身近で見れる。それと今おっしゃったように、土器の破片が何千、何万とあると思っておりますので、20~30点ぐらいは触らせても良いんじゃないかと思っております。しまっていてもしようもない訳ですから。何百、何千年前だとそれだけで子どもたちが、そういうことをしてあげれば違う感動をするのではないかと思っております。

(齊木副会長)

ものすごくたくさんの企画を展開されまして、いろいろな方に来ていただいたのだと思うのですが、企画された展覧会か何かの事業とどう連動したのか、言ってみれば展覧会のメインとなる企画と様々な企画のプログラムがありますけれども、どのように連動して、リピーターを上手く

獲得していくということで、この展覧会の内容とこの内容との構造的な関係が読めれば良いと思いました。やはりこの芦屋で行われている内容というのは、すべてが連携しているんですね。去年、今年と小学校や中学校の年間のプログラムを先生方にも理解していただいて、ここでの企画や様々な催しものを子どもたちも含めてどう関係づけられるかっていう議論をしました。それは開かれる展覧会、それと関係する企画がどう構造化されているのか、そういうような一覧は絶対に必要だと思います。それによって費用対効果も出てくると思うんですね。そして、私は今人数でこう見ますと実際の収益、要するに入館料は年間総計でいくらぐらいなのでしょう。企画によっては、無料にする。素晴らしいものを無料で公開してどのくらい人が来るのかと。公共の美術館ですから、例えば年間無料の年があるとかです。逆に入館料の費用と、それからそれを入館してもらうために色々なものを準備して、そのかかる費用を比較することによって、実は無料でもっとサービスすることができるんじゃないかと思います。その費用対効果や運営のしくみをもう一度洗い直すことを考えました。

(養会長)

月に2回や3回、外国では普通、火曜日や木曜日の無料日に子どももみんな行く訳だから、その1日で良いですから無料日をつくと全然違います。だからアメリカでよく学生が行くというのは、無料日に集めさせて、普段の日はお金を払わないといけないので、曜日によって、集めれば相当変わるんじゃないかと思います。それに対して子どもたちはその日に、普通の日も無料だろうけれども、子どもたちは無料で、それを常に無料にしたら大変ですから、週に1度無料日を作るっていうのもこれから必要かなって、今私は常設展に対して無料にしたいと思っています。特別展は絶対できませんが、いわゆる自分たちの持っているものの展示に対しては無料にするとか、実験的にやっても良いんじゃないかと考えています。

(齊木副会長)

やっぱりどれだけリピーターっていうか、来ていただく方々を確保するかという時には、思い切って実験をしながら効果を確認して、それをお金だけの効果ではなくて、そこでチャンスを得た子どもたちがどのように成長していくのか、それも大きな効果だと思います。

(池浦委員)

土器展に関して、沢山の貴重な土器が発掘されており、発掘された場所が、▽▽遺跡 □□遺跡などと記載はされているが、その遺跡の場所が芦屋の何処にあたるのか、地図表記がなく解りづらい。

震災展に関して、当館で展示中(震災時)破損をし、後に作者から寄贈され修復し、展示がなされている作品がある。震災展をやっているにも関わらず、本作品の辿った経緯についての説明がまったくない。

いずれも貴重な展示品であり、「土器ドキ・・・」などテーマのネーミングは良いが、来館者に「ドキドキ感」(インパクト・実感・共感)を与える工夫が欠けている。

(養会長)

すごく良い意見です。ぜひ、当時、写真を撮っていると思いますから、片づける前の状態の美術

博物館の被災状況の写真も出してから、もっとリアルに感じるとと思いますので、次回には必ずそれをやってほしいと思います。

(若林委員)

それといつもこちらに伺って感じるのは、入口を入れてそれこそワクワク感がないんですよ。あの広い広い、あそこのスペースがまったく生かされてないと思います。今回も目玉である展示物が、あの何か囲われた中にあるわけですけども、こちらの余白っていうものがまったく生かされていなくて、やっぱり一歩足を踏み入れた時に、「あ、今日はどんなものが見れるのかな」っていうような何か楽しいそういう雰囲気作りっていうのもいるんじゃないかと思います。これは一番予算に引っかかってくることだと思いますので、難しいとは思いますが、ちょっとエントランスのところあたりの工夫をいただきたいと市民として思います。

(養会長)

皆さん一緒だと思うので、考えていきたいと思います。今日貴重な意見をいっぱいいただくことができました。私たちは市民を代表していますので、ぜひ一歩でも良いから前へ進んでほしいと思います。どうもありがとうございました。